

地域の情報

上越市, 妙高市, 糸魚川市の小学校に在籍する健康に特別な支援を必要とする子どもたちを対象とした発達支援教室の開催

八 島 猛*・大 庭 重 治*・笠 原 芳 隆*

平成23年9月から, 小学校に在籍する健康に特別な支援を必要とする子どもたちを対象とした発達支援の場として, 「ふれあい教室」を立ち上げた。この教室は上越教育大学特別支援教育実践研究センターにおいて, 毎月1回, 土曜日の午後に実施されている。支援に当たり, この教室では子どもたちの感情や意欲といった情動的な側面の発達を重視している。とくに, 他児や支援者とのかかわりをとおして自己に対する気づきや適切な自己評価, 他者から受け入れられているというポジティブな自己の形成に焦点を当て, そのための働きかけ方や状況設定について検討がなされる。開催に当たっては, 上越市, 妙高市, 糸魚川市の教育委員会のご協力により, 各地域の小学校に対してふれあい教室の開催について案内していただいた。希望した保護者に対して支援者が教室の趣旨を説明し, 正式に参加する意思を示した子どもを対象に, 大学院生と特別支援教育コースの教員が発達支援を行ってきた。この教室は, 病弱教育臨床実習として大学院のカリキュラムの中に正式に位置づけられており, 支援にかかわる院生は原則として受講登録がなされている。活動の前後には, 合わせて約1時間半の支援者らによるカンファレンスが行われ, その日の反省と次回以降の計画について話し合いが行われている。

表1にふれあい教室の実施状況と主な活動内容を示した。参加を希望した登録者数は現在3名であり, 平成23年9月から平成24年2月までの間に, 5回の活動が行われた。活動内容は児童と保護者の意見を取り入れながら支援者によって企画され, 主として児童と支援者との協働によるゲームや創作活動が行われてきた。今後, 要望がある場合には教科的な学習支援も行う予定である。また, 表には示されていないが, 参加者の在籍校の担任やコーディネータに, これまでに合わせて3回参観していただいた。保護者, 教師, 支援者が互いに家庭, 学校, ふれあい教室における子どもの様子を観察したり, それぞれの場において得られた情報を交換, 共有することにより, 支援の視点はより明確になると思われる。なお, ふれあい教室において実施された活動内容やその成果の詳細については, 稿を改めて紹介していくことにする。

ふれあい教室は次年度以降も引き続き行う予定であるが, 当面の課題は次の2点である。1点目は健康に特別な支援を必要とする子どもたちを発達の視点から適切に評価するための方法について検討することである。茂木(2011)によれば, 発達の視点から障害のある子どもを理解しようとする場合, 諸能力の発達に視点を当てるにとどまらず, 能力の獲得に向かう子どもの活動を喚起し持続させることに深くかかわる感情や自己の発

表1 ふれあい教室の実施状況と主な活動内容

実施回	実施日	主な活動内容
1	H23. 9. 17	ゴムでっぼうで射的遊び
2	H23. 10. 1	クッキー作り
3	H23. 11. 19	自作のピンでボーリング
4	H23. 12. 17	ミニクリスマスツリー作り
5	H24. 1. 21	書き初めと羽子板遊び

達という面にも視点を当てることの重要性が指摘されている。ふれあい教室においても, 活動に向かう子どもたちの内面の発達を適切に評価しうる方法について検討していく必要があると思われる。2点目は, 通常の学校に在籍する健康に特別な支援を必要とする子どもたちの学校生活における困難さ, 言い換えれば, 教育的ニーズ(村上, 2006)を把握し, それに対する支援方法について検討することである。現在, 医療現場では治療方針の変化や医療改革等により, 健康に特別な支援を必要とする子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しており, 病弱教育の在り方にも大きな影響を及ぼしている(滝川・西牧, 2010)。それに伴い, 新たな教育的ニーズが発生していることが推察されるが, 現状において通常の学校に在籍するそうした子どもたちへの教育に関する文献は少なく, その実態についてはほとんど明らかにされていない。したがって, ふれあい教室の参加者とその保護者, 学校教育現場との情報交換・情報共有に基づき教育ニーズや支援方法を明らかにすることは, ふれあい教室の参加者にとって必要な支援を提供することにとどまらず, 通常の学校における健康に特別な支援を必要とする子どもたちの現状や今後の課題について検討することにもつながるものと考えられる。

文献

- 茂木俊彦(2011) 障害のある子どもの理解と教育指導, 障害者問題研究, 39(2), 2-9.
- 村上由則(2006) 小・中・高等学校における慢性疾患児への教育的支援-特別支援教育の中の病弱教育-, 特殊教育学研究, 44(2), 145-151.
- 滝川国芳・西牧謙吾(2010) 病気のある子どもを担当する教師間における情報共有手段の開発に関する研究-ICT(Information and Communication Technology)活用による病弱教育支援冊子の作製をとおして-, 川崎医療福祉学会誌, 20(1), 147-157.

* 上越教育大学大学院学校教育研究科臨床・健康教育学系

付記

平成24年度については、ふれあい教室への参加者を引き続き募集していますので、ご希望の際は八島研究室（電話：025-521-3351／メールアドレス：yashima@juen.ac.jp）までご連絡ください。参加費は無料です。

最後になりましたが、ふれあい教室の開催にあたり、妙高市立新井小学校教諭石野公子先生、上越教育大学大学院臨床・健康教育学系准教授葉石光一先生に貴重なご意見をいただきました。また、運営において平成23年度上越教育大学プロジェクト（若手研究）の補助を受けました。記して感謝申し上げます。